

**【施策評価調書】**

施策名	5-2-1	自然・体験活動への支援		117	次代を担う青少年を健全に育成することは、大人の責務です。育成には、家庭教育、学校教育、社会教育等が、その代表的なものとしてあげられますが、施策の実施にあたっては、それらを一体化し、親や地域を巻き込みながら、一緒になって自然体験活動、社会体験活動を実施することによって、物事に主体的に取り組む姿勢を身につけ、思考の柔軟性、感受性、幅広い人間性を磨き、豊かな人間性を持った青少年を育成します。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	教育部生涯学習課	担当 リーダー	社会教育担当 横塚恵子		
環境変化	近年、青少年を取り巻く環境が大きく変化し、家庭教育力、地域教育力が低下していると言われている。				民間団体、NPO法人*、地域団体が実施する自然・体験活動を支援します。また、公民館事業と連携し、親を対象とした、親が親であるための講座や教室を開催します。(*「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

**指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：自然・体験活動参加者数	平成16年度	計画	2,500人	2,800人	3,200人	3,600人	4,000人
		実績	2,465人	2,837人	2,487人		
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	395,000	1,806,000	925,000		
	決算	136,384	1,621,606	1,235,998		

**事務事業事後評価 20年度の検証**

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)
青少年対象自然・体験活動支援事業費	当初 925,000	事業参加人数 2,487人 / 3,200人	A	親子のふれあいや地域との交流活動の場を提供することにより、ほぼ計画どおりの事務事業を執行することができました。 親子を対象に開催した自然体験、環境問題に取り組んだ河川保全活動、食育推進のための事業など幅広い事業に取り組むことにより、個々に勤労の精神や収穫する喜び、収穫したもので料理し食べたりして、活動の充実感や達成感をみんなで味わうことができ、子どもたちの自主性が生まれてきたと思われる。
	決算 708,788			今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 統合
森林環境学習支援事業費 補正	当初	事業参加人数 52人 /	A	県産材の間伐材を利用し、青少年の遊び場としてまた木工作業の場となるミニログハウスを完成させた。親子で共同作業、指導者からの木材の話しや地域のボランティアの協力を得て作業を行ったが、子どもたちはこの事業を通し、活動の充実感や達成感を味わうことができた。また残った廃材をうまく利用しものを作り出す自主性などもうまれた。
	決算 527,210			今後の方向性(自己評価) 統合 今後の方向性(総合評価) 統合
	当初			
	決算	/		今後の方向性(自己評価) 今後の方向性(総合評価)

**施策事後評価 20年度の検証**

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	目標値に達しなかったのは、同じような事業を整理したことによるもので、事業は計画どおり推進したものと評価する。 青少年の体験活動を実施することで、親子のふれあいや家族の絆の大切さを学ぶとともに、家庭を振り返り、親への感謝の心を養う機会を提供することができた。 また事業を通して参加者との交流を深め、参加者一同が同じ目標に向かって体験することの楽しさなども共有することができたことに評価する。こうした事業を通して、いじめや虐待、自殺などの予防策となり、健全な子どもの成長が図れる。 森林環境学習支援事業は、青少年対象自然・体験活動事業費に統合し、青少年を対象に自然体験活動として一体的な事業に取り組んでいく。	青少年の自然体験交流事業には、地域のボランティアや青少年を育成しようとするNPOや各種団体の方々の協力もいただき実施している。こうした事業を実施することは青少年の育成には大切な事業と考えているので、今後も継続して実施していきたい。 次代を担う青少年の主体性や創造性を育てながら、心豊かな成長を図るために、町の事業とともに学校、地域や各種団体、企業等と協働しながら、若者のボランティア活動の実践の場として、またジュニアリーダーズクラブや地域リーダー育成の場とする視点での事業の組み立て方を検討していく。
総合評価	総合的に施策展開されていると評価する。 ただし、後期計画策定に向け、単発的に事業を行うのではなく、他の分野の施策や生涯学習課で行う他の施策と抱き合わせにより、一層の成果をあげていくなど、手法を改善すること。生涯学習は自由な発想が可能な分野であるので、他課や関係機関、NPO団体等との連携を図った施策展開を検討すること。 また、それに併せた施策指標も見直すこと。	